

天皇陛下、

世界に発信し続ける 水研究の足跡



よしむら かずなり
吉村 和就

グローバルウォーター・アジア・パシフィック代表
国連テクニカルアドバイザー
水の安全保障戦略機構技術普及委員長
日本水フォーラム理事

五月一日から新元号「令和」となり皇太子・徳仁親王は、新天皇に即位された。筆者は京都で開催された第三回世界水フォーラムから第七回まで、また国連で開催された「水と災害に関する特別会合」、さらに「アジア太平洋水サミット」、「国際水協会（IWA）東京総会」など多くの国際会議に出席し、新天皇の「水に関する造詣の深さ」を直接拝聴してきた。誠に僭越ながらここに改めて「天皇陛下の世界に発信し続けてきた水研究の足跡」を振り返って紹介してみたい。

一・国際的な活躍

水問題については、皇太子時代に学習院大学で「中世の瀬戸内海の水運」を研究なされ、さらに留学先の英国オックスフォード大学で「十八世紀のテムズ川の水運」を研究、三十六歳だった一九九七年には「陸上交通と水上交通が、どのような

補完関係にあったか研究を深めたい」と発言している。それから二十年以上も水研究のメッセージを国内外に発信し続けている。国際舞台への転機は

(一) 平成十五年三月に名誉総裁としてご臨席になった「第三回世界水フォーラム」の開会式（京都）において「京都と地方を結ぶ水の道―古代・中世の琵琶湖・淀川水運を中心として―」と題した記念講演をなされた。このフォーラムには約百八十九カ国・地域から約二万五千人が参加、世界に広がる水不足や水質汚染、まずまず深刻化する水災害の現状が報告された。

(二) 平成十八年三月にメキシコをご訪問になった際には「第四回世界水フォーラム」全体会合において「江戸と水運」と題した基調講演をなされ、特に利根川の東遷（江戸を洪水から守るために利根川の流れを変えた）や干拓や、江戸の水道（玉川、神田上水）構築に取り組んだ日本の歴史を紹介された。

(三) 平成十九年十二月には「第一回アジア・太平洋水サミット開会式」（大分県別府市）において「人と水―日本からアジア太平洋地域へ―」と題した記念講演をなされた。

(四) 平成二十年七月にスペインをご訪問になった際には二〇〇八年「サラゴサ国際博覧会・水の論壇」シンポジウムにおいて「水との共存―人々の知恵と工夫―」と題した特別講演を行い、特にスペインの生んだ偉大な作家セルバンテスのよる「ドン・キホーテと風車」について講演、参加者から大きな拍手が寄せられた。筆者は帰路、陛下が講演で触れられたスペイン・セゴビアの「ローマ水道橋」を視察、長期的な視野に立って水の安定供給を実現させたローマ人の構想力に感動した。

皇太子殿下の講演
「第五回世界水フォーラム」
【2009年3月トルコ・イスタンブール】



写真：グローバルウォータ・ジャパン撮影

- (五) 平成二十一年三月にトルコ・イスタンブールで開催された「第五回世界水フォーラム」において「水とかわる―人と水との密接なつながり―」と題した基調講演をなさり、特に日本が歴史の中で、いかに水問題と取り組んできたのか、歴史的な考察と具体的な事例をあげて語られた。
- (六) 平成二十四年三月にはフランス・マルセイユで開催された「第六回世界水フォーラム」において「水と災害―津波の歴史から学ぶ―」と題したビデオメッセージが上映されました。特に陛下自身が撮影された東日本大震災と大津波の写真、さらには震災復興に懸命に取り組む日本人の姿を紹介され、会場から大きな拍手が湧き起った。
- このフォーラムには日本からも多くの参加者があり、総勢三万五千人の水関係者が集結した。
- (七) 平成二十五年三月にはニューヨークで開催された第一回国連主催「水と災害に関する特別会合」において「人と水災害の歴史を辿る―災害に強い社会の構築のための手掛かりを求めて―」と題した基調講演をなされた。
- (八) 平成二十七年四月には韓国・釜山市で開催された「第七回世界水フォーラム」において「人々の水への想いをかなえる―科学技術を通じた水と人との関わり―」と題したビデオメッセージが上映された。悪天候で主催国のパク・クネ大統領が欠席する中、殿下の「人々の水への想いを叶える」の講演内容は、多くのアジア諸国の参加者に深い感動を与えた。(世界百六十八カ国から約四万一千人が参加)
- (九) 平成二十七年十一月にニューヨークで開催された第二回国連「水と災害に関する特別会合」において「人と水とのより良い関わりを求めて」と題した基調講演をなさいました。特に「人々の水に対する想い―日本と世界の文学から―で和歌に歌われた水と災害の表現を紹介、最後に「人々がどこでも水とともに、平和にゆつくりと過ごせる世界を実現できるよう、私も今後とも取り組んでいきたいと思えます」と締めくくった。
- (十) 平成二十九年七月にニューヨークで開催された第三回国連「水と災害に関する特別会合」において「水に働きかける」と題したビデオメッセージが上映された。
- (十一) 平成三十年三月にはブラジルで開催された「第八回世界水フォーラム」の「水と災害」ハイレベルパネルにおいて「繁栄・平和・幸福のための水」と題した基調講演をなされました。
- (十二) 平成三十年九月には東京で開催された「第十一回国際水協会（IWA）世界会議」において「水問題の大切さ、水関連災害への対応も国際社会が取り組むべき重要な課題である」と述べられた。参加者一同が非常に感激したことは講演内容はもちろんのこと、前日までのフランス訪問にもかかわらず、皇太子殿下・妃殿下

- (十三) 平成三十年九月には東京で開催された「第十一回国際水協会（IWA）世界会議」において「水問題の大切さ、水関連災害への対応も国際社会が取り組むべき重要な課題である」と述べられた。参加者一同が非常に感激したことは講演内容はもちろんのこと、前日までのフランス訪問にもかかわらず、皇太子殿下・妃殿下

国際水協会 (IWA) 世界会議・東京総会2018

東京ビックサイト 2018年 9/16-9/20



水問題の大切さ 英語で30分ご講演



開会式 皇太子ご夫妻 ご臨席

写真：グローバルウォータ・ジャパン撮影

下のご臨席を賜ったことであつた。(参加者は過去最高の九十八カ国から約一万人(うち日本人は四八%)

筆者は様々な国際会議や合会において天皇陛下のご講演を直接拝聴してきたが、共通して言えることは、①日本古来から面々と連なる水に関する歴史や知恵を紹介し、世界に発信してきた。②講演資料(パワーポイントなど)には、必ず自ら撮影した写真、あるいは直接視察された内容が述べられている。③世界のあらゆる階層の人々に思いを馳せるお言葉がある。

このように天皇陛下の「水に対する真摯な姿勢、研究内容の深さ」が世界中から集まつた会議参加者やメディア関係者を感動させたのであつた。

二・今上天皇として 水研究のメッセージをご公務に

天皇陛下は、皇太子時代より「水問題への取り組みはライフワーク」とし国内外で大きな貢献をなされてきたが、こうした「水に関する対外的な活動」が日本国憲法の定める「日本国民統合の象徴」としての行為に当たるかは、論議が分れるところであるが、水関係者の一人として、国事行為多忙の中でも、今後とも世界や国内に向けて水問題解決の啓蒙活動に邁進して頂きたいと希望している。

既に天皇陛下は今年二月、五十九歳の誕生日を前にした会見では、「ライフワークとして長年携わつた水問題(水災害、地球温暖化問題、貧困問題解決など)を即位後も公務の中に据える考えを示されている。

国内においても、国民の祝日である「みどりの日」、「海の日」、「山の日」や「世界水の日」などの記念日、また日本で開催される国際会議、例えば令和元年(二〇一九年)八月横浜で開催される「第七回アフリカ開発会議」(日本政府はアフリカ地域でコメ生産量増計画(水資源の確保が命)を提案)や、令和二年(二〇二〇年)熊本で開催される「第四回アジア太平洋水サミット」(主要テーマ・持続可能な発展のための水)実践と継承)などの機会を通じ、国際社会から高い評価を受けている天皇陛下の水に関するメッセージの発信を熱望している。陛下の国内外へのメッセージ発信は、日本にとっても世界にとっても、非常に意義のあることと確信している。

平成は「水災害が多発した時代」でもあつたが、令和は「水問題解決の時代」でありたいと思う。